



「令和」新しい時代を生きる

新年度を迎え、早くも1ヶ月が経ち新緑の季節5月を迎えました。子どもたちの元気な声が学校に響き渡ります。子どもたちは新たな学年での生活を軌道に乗せ、目標に向かって様々な取組を進めています。

さて、5月1日に即位の礼が行われ、元号が「平成」から「令和」に変わりました。テレビや新聞などでは、30年あまり続いた平成の時代を振り返り、令和の時代への願望などについて報道されていました。その中で、ある一つの新聞記事が目にとまりました。4月30日の新聞の記事です。記事のタイトルは「数字で30年を振り返ると」です。訪日外国人客、交通事故者数、農業の担い手など、様々な視点から30年間の変化をまとめていました。その視点の中で気になったのが「大学進学率」です。

24.7% → 53.3% 大学進学率は、この30年間で倍増しているのです。18歳の人口は、193万人から118万人に減る一方で、大学生は207万人から291万人に増えています。進学率は今後も少しずつ伸びると予想されています。本校の子どもたちもやがて18歳を迎える時期がやってきます。上記の数字並みの大学進学率になるのではないのでしょうか。大学に進学することは素晴らしいことだと思います。しかし、ただ進学するのではなく、「何のために」が大切です。「自分は将来、〇〇になりたい」や「〇〇をしてみたい」などの目的意識を持って進学することが、自分の夢を叶えることにつながります。

改元を機に、「令和の時代をどう生きる」として自分自身の夢や目標を文章に残しておくことも大切です。子どもたちには、「自分の未来を自分の力で切り拓く」という強い意志を持ち、充実した毎日を過ごしてくれることを願っています。

令和

春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたい。

(日経新聞より引用)



4月の体育朝会



1年生を迎える会